

その他の金属製品製造業における金属材料を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
1	9～ 10	当社工場内で鋼材コラム（口500×500×32、L5.5M）を2.8tクレーン2台で上を見ながら移動操作中、鋼材を置くためのマンホウ（角パイプ100×100、L2M）につまずき転倒した。その際に右手を床につき、右手橈骨遠位端骨折した。	39	30 ～ 49
1	8～9	自社製造工場内の屋根材断熱材裏張りラインにて、コイル巻き取り作業中、一旦ラインを離れて巻き取り後コイルをライン枝の蔵置場に運び、再び作業場へ歩いて戻る途中、床に敷いていた薄鉄板の一部に、床より1cm程めくれた箇所があり、そこに左足つま先が引っかかり転倒し、右足膝を床に強打した。転倒後、それほど痛みが強くなかったが、次第に腫れや痛みが強くなった。	47	10 ～ 29
1	9～ 10	自社工場にて、工場に立てかかっている鉄板をチェンブロックで吊る際に、縦吊りクランプを入れる隙間がなかったため、手前に起こした際に鉄板が倒れ掛かってきて抑えようとしたが、重さに耐えきれず、逃げ遅れて右足を被災した。	61	1～ 9
1	16～ 17	工場内で鋼材を切断作業中に、切断する鋼材を移動する際、台木の準備が不十分だったため、左足を挟まれ骨折した。	52	1～ 9
1	8～9	当社工場にて鉄板（600×700×12mm、重さ約40kg）を両手で持ち、手をすべらせて、作業台と鋼板の間に右手親指を挟み負傷した。	33	50 ～ 99
1	14～ 15	工場内で搬入物の鉄パイプの束を台車にのせる際に、普段は腰の負担を考慮し屈伸して運ぶが他の搬入物もあった為そのスペースもなく、前屈の状態で運ぶことを強いられ、想定以上の負荷が腰に掛かって腰痛となり、悪化して椎間板ヘルニアとなった。	29	30 ～ 49

1	16～ 17	カゴ台車に鋼材を載せて移動していた時、勢いがついたためカゴ台車を止めて振り向いた。その際、自身の左側に置いてあった鋼材に左脇腹をぶつけて受傷した。	54	50 ～ 99
1	10～ 11	工場内にて、トイレに行くため急いで歩行中、工場内に置いてあったH鋼に不注意から、ぶつけてしまった。H鋼には、危険を指すため赤い布をマーキングのためにかけていたが、それ以後、突出しない事を、従業員に指示した。	37	1～ 9
1	17～ 18	本社工場内に於いて、鋸盤で切断されたパイプをパレットより下ろす作業（10kg～20kg、10本位）をした後、左手が痛み出した。以前に靱帯の損傷をしており、同じ所が痛んだ。筋肉の方は完治しているので、数日間は左手を使わないようにとの診断を受けた。	18	30 ～ 49
1	9～ 10	鉄骨加工場において、鉄製階段を作製中、高さ60cm程の高さより降りたところ、右足首に痛みを感じ負傷した。	63	1～ 9
1	16～ 17	工場内にて、コラムの開先取り機にて作業台に載せて、コラム（口・250×250×9）の開先を取る際、長さ約2.5Mの品物の移動のとき、品物が足（左）安全靴の金具の無い所にずり落ちた様である。なお、災害発生時は本人しかおらず、現認者がいなかった。	26	10 ～ 29
1	13～ 14	鋼材をクレーンにて移動中、下に置いてあった鋼材を跨ごうとした時に、安全靴（右足）が鋼材に引っかかり靴が脱げ、脱げた足が床に着いた時に、鉄くずを踏んでしまい負傷した。	61	10 ～ 29
1	17～ 18	レーザー加工室で、加工台に鉄板をのせるため、鉄板の下に右手を入れて持ちあげる作業を行っていた際、すき間の確保が不十分であったため、鉄板と床の間に右手をはさまれた。	23	10 ～ 29
1	16～ 17	工場内にて製品パイプの検品中、高さ1.0m、長さ1.7mのパイプから誤って足をすべらせ落下し負傷した。	60	1～ 9
1	16～ 17	事業所工場内において、穴あけ機で鋼材（H型鋼、H300×300、長さ5m、重量450kg）に作業台上（高さ60cm）で穴あけ作業中、移動する時に躓き、2～3歩よろけてしまい、H型鋼を跨ぎ足を下したところがH型鋼の隙間だった為に倒れて負傷し	65	1～ 9

		た。		
1	15～16	工場南棟の大型旋盤で舵の部品のラダーストック（鋼材）を旋削加工中、操作確認の為、操作盤のモニターに目をうつした為に加工作物から削り出された切り屑が伸びてきている事に気付かず、長い切り屑が左肘に当たり裂創を負った。	39	10～29
1	9～10	裏ヤード原料置場にて、古紙圧縮機（1.2m×1.2m×8m）を3分割にする為、開口部の内壁両側横方向に取り付けている30Kレール3本を圧縮機内部に入り、2m付近の位置で上部数センチ残してガス切断後、底部をさらに切断中に、切断した左側レール3本がゆっくりと倒れてきて左足の上に乗った。倒れてきたレールは、開口部側に固定されていなかった為、倒れてきたと思われる。	68	100～299
1	19～20	工場内で治具（19.5kg）を台の上に平らに仮置きし、両手で掴み持ち上げようとした時、手が滑り手前に落ちた。その際、手前に立てかけていた治具との間に指が挟まった。	38	30～49
2	11～12	当事業所の鋼材倉庫内において、鋼材の荷降し作業を終え、鋼材より降りる時（高さ1.5m）、雪で足を滑らせ片足が鋼材と鋼材の間（20cm）に入り、鋼材の端に尾?骨を打ちつけ負傷したものである。	56	10～29
2	14～15	E棟仕上げ作業場で仕上げ作業台の上でコラム材の反転作業をしている時、隣に置いてあったコラム材の仕口（H鋼）部分との間隔が狭く、反転しようとしたコラム材の仕口（H鋼）を持つ位置が悪く反転した時、持っていたコラム仕口と倒した側にあったコラム仕口の間で左手人差し指を挟まれ負傷した。	19	100～299
2	15～16	取引先でエアー配管工事中、加工した配管を手で縦に持ち、フォークリフトのパレットに乗って上昇していたら、配管が天井のクレーンI形鋼に当たって、配管の直下にあった足を挟んでしまい、右足の親指と人差し指を骨折してしまう。	31	10～29
2	16～17	工場加工場内で切断機上部を歩行中にスリップ・転倒し尻餅をつき、その際に縦に向いていたD16の鉄筋が臀部に刺さり出血した。	39	10～29
2	15～16	工場内で廃材を片付け中に道路上に仮置きした廃材の上で足を滑らせバランスを崩し転倒した。	54	1～9

2	11~12	溶接作業場で溶接作業後立ち上がり歩きかけた時床に置いてある鋼材に躓き足を挫いた。	46 9	1~
2	14~15	会社の工場内で鉄材料を手持って運んでいる時に足元の材料に足がのってしまい転倒してしまった。	29 9	1~
2	8~9	工場内で焼き付けした商品を冷却後、炉から工場長と2名で台車を用いて搬出作業中、重量があるため台車の移動がスムーズにいかず、持ち手を変えながら押していた時に誤って台車のコマに指を挟んだ。	69	—
2	15~16	第一工場において、縞鋼板を加工する作業中に、倒れてきた縞鋼板（4.5mm厚、1219×2438）4枚、約440kgと運搬用に駐車していた2tトラックの荷台に左腕を挟まれ骨折した。	22	30 ~ 49
2	14~15	当社貯鋳ヤードにて、スクラップのガス切断中に切断した鉄製スクラップ（幅90cm×長200cm）が倒れ、その下敷きになり、胸部を圧迫された。	53	10 ~ 29
2	11~12	ステンレス板をクレーンにて吊って運搬中、誤って落下させ、右足の上に落とし、骨折した。	35	1~ 9
2	16~17	工場内で運搬台車に立て掛けてあったステンレス鋼（重さ30kg）の板材を両手で上へ引き上げた際、右手首に痛みを感じ、その痛みがその後に継続した為、業務終了後に病院に行った。	29	100 ~ 299
2	16~17	切断製品に付着しているノロを、専用工具（カス取り）で除去作業中、取りづらいので力を入れて自分の方向に工具を向けた状態でノロを除去しようとした際にノロが浮いた状態となり、細くとがった先端が左手にはめていた皮手袋を突き破って刺さった。	25	50 ~ 99
2	10~11	機械が材料切れにて停止したため、機械北側原線置き場に立て掛けてある次に伸線する原線（1tコイル径7mm）のメタルタグを確認後、原線の正面に背を向けた状態で傍らに止めていたリフトに乗ろうと振り返った時、原線が倒れてきて左足が下敷きになり被災した。	52	100 ~ 299
				10

2	15~16	仕事中、鋼材に躓き転倒して左手指を捻挫した。	65	～ 29
3	11~12	会社工場内において、残土を入れる鉄製型枠容器を製造するため、鉄板（長さ3.1m×巾.52m×厚さ4.5mmの三角板、重さ約80kg）を加工中、持ち上げて位置を変えようとしたところ、誤って手が滑り、左手の指を挟み負傷した。	64	10 ～ 29
3	20~21	試し用材料をプレスするため隣に移動させようと向かい合い2人で上げようとしたところ、腰を痛めた。当初はあまり痛くなかったため通常どおり仕事をしたが、夜に痛みが出てきた。	35	10 ～ 29
3	15~16	会社工場の前にて、トラックの荷台に積んであるチャンネル（鉄製溝形鋼、長さ1.5m、重量約20kg）を降ろす作業をしていたところ、手が滑ってチャンネルを右足の甲に落としてしまい、右足の中指を負傷した。	61	1～ 9
3	11~12	構内で溶接ワイヤーの交換中、手がすべり溶接ワイヤー（20kg）が高さ約1mから落ち、左足の親指を負傷した（安全靴着用）。	22	10 ～ 29
3	11~12	作業場で部品の締め付けを行う際に、部品を安定させようと左腕で丸い部品を抱き、右手で締め付け、圧力をかけたところ肋骨が折れた。	44	50 ～ 99
3	11~12	第二工場にて商品引き取り時、工場2階より金網加工品（約500kg）を吊り下ろしのため荷造りベルトを掛け乗せる際に、ベルトの引っ掛け元がゆるみ出したためベルトがはずれ、金網加工品と樫木の上に左手第二指第一関節と第二関節の間を挟み骨折した。	56	10 ～ 29
3	16~17	中庭作業場横にて、オイルパンに入った水を出す為に鉄板をひっくり返そうとし、鉄板を支えていたときに誤って手をすべらせ、左足に落ち負傷した。	20	30 ～ 49
3	16~17	工場1階フロアにおいて、品物をクレーンで移動させようとした際、品物をフックにかけるため挟もうとしていたが、クラブごとはずれてしまい足元に落ち、左足を負傷した。	50	1～ 9

3	16~17	現場へ向かう途中、トラックを運転している時に腰に痛みが出て動けなくなった。 また、工場内で30~40kgの屋根材を中腰のまま両手を持ち上げて後方に振り返った際、急いでいたため勢い余ってバランスを崩し、腰を捻ってしまい腰痛を発症した。	28	1~9
3	16~17	当社工場内にて金物加工をしているとき、金物に油が付着していたため、作業台より移動させる際に手が滑り、金物が足に落下した。	73	10~29
3	14~15	当社工場内にて一人でパイプを製作中、これを移動させようとしたときに誤ってパイプを足の上に落とし負傷した。	48	30~49
3	11~12	プレス作業場で、200tプレス機で角パイプの穴開け作業中に、角パイプの穴部にプレスの切り枝が詰まったため、タガネで叩いて取り除く作業をしていた際に、保護めがねを装着していなかったため、一部はがれて跳ね返った鉄片が眼に入り負傷した。	22	50~99
3	14~15	事業所工場内にて、金型組立を分解中、金型を動かした際に左手薬指を裂傷した。	67	1~9
4	10~11	当社メッキ加工作業場内にて（メッキ加工最終工程）、水洗い後、メッキ付着量を計量するため、台秤で測定しようとした際に発生した。クレーンで吊った状態から安定した状態（前倒しして平にする）で測定するため、手前に倒そうとしたとき、なまし鉄線1本で吊っていた鉄板重ね8枚（1000mm×1300mm×450mm重量470kg）が倒れ、作業員右足を圧迫し負傷した。原因は、加工製品の重量に対するなまし鉄線の選定と使用状況、および作業員数を増やすなどの状況判断の甘さにある。	67	1~9
4	15~16	工場内で2人1組で作業台にあったH型鋼を手でゆっくり一回転させる作業をしようとしていた。かけ声をかけ2人同時に動かしたあと、手を離さなければいけなかったのにそのまま離さなかったため、当人に鉄が傾き、作業台との間に指を挟んで骨折した。	18	30~49
				10

4	13～ 14	塗装場にて1人で立て掛けてあった扉の枚数を確認していた所、4枚目の扉を立てたため支えきれなくなり、扉が倒れて下敷きになった。	29	～ 29
4	14～ 15	トラックから長さ約3Mの鉄パイプを降ろしている際に手が滑って落とし、近くでしゃがんで作業をしていた当事者の左首から上半身に当たり、両部全体を負傷した。	56	1～ 9
4	9～ 10	出荷製品（バラ）を作成中に、作成している製品（バラ）を積み込むトレーラーが入庫したタイミングで出荷製品（バラ）の作成ミスが発生したため、慌ててミスの発生した製品の対処に向かう際、製品上から転落してしまった。第二工場内（製品置場）において、出荷製品の準備作業中に梱包された製品を注文で指定された本数へ組み直す。作成ミスが発生（出荷品と在庫品を逆に梱包してしまった）したため、製品の上面を移動しながら、目的の製品の上面に到着予定。長さ9Mの製品上から長さ7Mの製品上へ移動するつもりが9Mよりも2M短い事に気付く事が遅れ転落してしまった。	32	30 ～ 49
4	16～ 17	第二工場仕上げ作業場にて、高く積まれた製品をクレーンで吊り上げた際、積まれていた製品が崩れ怪我をした。	54	10 ～ 29
4	10～ 11	仕上げ作業場において、プラスチック金型のスパーサーブロック部品（110×68×600）を作業台より落とした時、安全靴は履いていたのだが、足の甲にも当たった為、打撲になった。	27	10 ～ 29
4	10～ 11	当社工場内において、研磨機で半導体製造装置の部品の研磨を行っていた。研磨面を直角にするため、製品（82cm×18cm×5cm、50kg）にひもをかけてクレーンで持ち上げ、機械面との間にシクネスを入れようと指先を入れたところ、ひもが一部はずれ、製品と機械面の間に指先を挟み負傷した。	64	10 ～ 29
4	18～ 19	当社工場でH鋼を整理するために、動かしているときに手が滑り、左手をはさんだ。	24	1～ 9
4	16～ 17	自社工場にて、加工した鉄骨を重ねようとし、鉄骨の端を横にずらした時に、フランジの下に右手人差し指を挟み負傷した。	36	10 ～

				29
4	10～ 11	工場内・入荷品、出荷品置き場で、トラックの荷台から一般鋼材（5～6m定尺パイプ）を荷下ろししようとした時、所定の置き場（床の上）に既に一般鋼材が大量に置かれていた。まだ一般鋼材を下ろす場所があるか否かを確認しようと、思わず既に置かれている一般鋼材に足をかけてしまった所、油がかった一般鋼材の表面で足を滑らせ前へ転倒し、右第5中足骨を骨折した。	24	30 ～ 49
4	10～ 11	台車にのせた材料が足の上に落下した。	62	10 ～ 29
4	9～ 10	パイプ（1.5m）の内径寸法の検査工程で、ゲージをパイプ内に通しストンとゲージが落ちれば良品と識別する作業中、ゲージがパイプを叩き付けたためゲージを取り外そうとした際、叩き付けたパイプ先端部分と地面に右手中指が挟まり、更にゲージが反動で損傷部位に落下した。	50	30 ～ 49
4	11～ 12	製造ライン稼働中、電気炉（インダクションヒーター）の整列コンベア上で材料が段差に引っ掛かって止まっていた。被災者はその材料を取り外す作業をしていたが、設備を停止させずに、直接手で（軍手着用）取り外そうとした。材料が外れた際、材料を押し出す「突き出し棒」の力で材料がはじき飛ばされ、指に当たり負傷した。	45	30 ～ 49
4	14～ 15	当社作業場において構内の設備に取り付けるための手摺の製作中、手に持っていた鉄パイプを誤って落とし、左足甲付近に落下し負傷した。	52	10 ～ 29
4	10～ 11	第1工場棟外ヤードサブマージ用BH置場にて、BHをクレーンを使用して横持ち台車への積み込み作業中、2段ピラミッドにハイ積みされた下側のBHに乗り上側のBHセンターにクランプで玉掛けを行い、センターの確認をしたのち地切りを行った時に、後方で別の作業者が同形状のBHを溶接治具より取り出し、ピラミッド状にハイ積みしようとした。BHの前端部が前方で地切りをしたBHの後ろ端部に接触し旋回した時、後方端部に退避しようとしていた被災者の右足首が地切りしたBHのフランジと下BHのフランジに挟まれ右足首を負傷した。	26	100 ～ 299

4	16～ 17	工場でサンダー削りをしている時に、周りに物があつたため跳ね返って目に鉄粉が刺さった。	17	1～ 9
5	8～9	工場内で製品の移動を被災者ともう1名が行っていた際に、被災者が高さ85cmの製品に登り玉掛け作業を終え、床に飛び降りた際に床に設けてある配線保護カバーの角を踏み、右足を負傷した。	62	50 ～ 99
5	9～ 10	会社工場内で材料の積み下ろし中、高さ1m位の高さに置いてある梱包されていない鋼材を吊ろうとワイヤーロープを鋼材に掛けている途中、吊ろうとしている鋼材のすぐ脇にある他の鋼材が斜めに積んであり、不安定な状態だったため崩れてきて被災労働者の右足にあたった。	40	30 ～ 49
5	14～ 15	工場にて、室外機架台製作（約320kg）溶接中に品物を反転しようとして（既に固定用のシャコ万力を取り外していた）玉掛けをしに近付いたところ、急に品物が倒れてきて右足を挟み負傷した。	67	1～ 9
5	10～ 11	作業場で、H鋼のガス切断の作業をしている時に、隣で作業をしていた別の労働者が切断したH鋼が崩れて腰に当たり骨折した。	29	10 ～ 29
5	10～ 11	締め機作業で円だしを行う際、足元に置かれていた円筒形の鉄材（直径1150mm、高さ100mm、厚さ6mm）を左足で押して移動させようとしたところ負傷した。	38	1～ 9
5	4～5	高さ約70cmの高さの作業台で製品（長さ約2m、重量約7kg）面取り作業中、次の製品との入れ替えをする為に持ち上げた際に手が滑り、左足親指上に落として受傷した。	30	100 ～ 299
5	11～ 12	当工場内において鋼材をクレーンで移動させようと吊り上げたところ、床に2段積みで置いてあつた鋼材の上段に当たり、その鋼材が左足の安全靴の上の部分に落ちて、甲の部分を骨折した。	58	10 ～ 29
5	11～ 12	工場内でダクト組立中、後ろにあつた工具を取ろうとして足元にあつたダクト材に躓き転倒しそうになり、左足を移動した時にダクト材で左足首外側を切傷し、バランスを崩して右手で踏ん張る際にダクト材で右手小指外側も切傷した。	42	1～ 9
	16～	鉄骨製品の溶接作業が終わったので下向溶接用回転機から、製品を降ろすため玉掛		50

5	17	けをしようとして、回転機の上部蓋を外して製品の上（高さ1.6m）に乗った際、製品がぐらついて下に落下した。	29	～ 99
5	17～ 18	出張作業中、同社工場構内で鋼材の整理中、溶接用ケーブルが梁仕上げの先端に引っ掛かり、それを若干引っ張った時に梁材が不安定だったので倒れ、左足首に落下した。	39	1～ 9
5	15～ 16	製品組立作業場にて、製品組立用の作業台にのせて組み外しの作業を行っていたところ、製品が滑って落下しそうになったのを阻止する為に、反射的に手で受け止めたところ鋭利な部分が当たり、左手親指の付根付近を切った。	36	10 ～ 29
5	16～ 17	工場でスクラップ回収作業中、車の荷台より滑り落ちたスクラップ（2kg位）が転がって来て足に当たった。	21	1～ 9
5	14～ 15	会社工場内で、1m50cm四方の金網ドア枠の仕上作業中、作業台の上ののったドア枠の反対面の仕上作業をするためにドア枠をひっくり返そうとしたところ、ドア枠が右脇腹に当たり、食い込んだ状態でドア枠を作業台に置いたところ、右肋骨を損傷した。	45	1～ 9
5	10～ 11	第4倉庫内で、鉄板を寄せようとしていた時に鉄板がずれ、右手中指と薬指を挟んでしまった。	29	10 ～ 29
5	16～ 17	当社本社第2工場で、パイプに付着したアルミを剥離した後、パイプの両端から洗浄液が残っていないか確認していた。片方は指をパイプに入れて確認し、被災者は目視で確認していたところ、パイプから指を抜こうとした時に抜けにくかったため、力一杯に引っばってしまい、反動でパイプが被災者の左目に当たり負傷した。	37	1～ 9
6	17～ 18	製造作業場内において、製作中ハウスの床板を貼る前の鉄骨柱の床（幅30cmの鉄骨材が25cm間隔で渡してある）の上を歩こうとして左足を踏み外し、鉄骨材の隙間に両足が前後に落ちた。はずみで上体のバランスを崩して横に倒れ、左足膝下を骨折し、右足に擦り傷を負った。	56	30 ～ 49
6	14～	工場外部カードにて、製品の出荷積込みのためにトラックの荷台へ移動したところ、既に積まれていた製品に頭をぶつけてしまい、その反動による地面への落下に	66	10 ～

	15	よって、左手首・左側胸部・右膝を強打した。（地面にはH鋼が置いてあり、その上に落下した。）		29
6	16～ 17	被災者と作業リーダーの2人でクッションストッパーの交換作業中、クッションストッパーの軸を固定する板の溶接作業をしていた。終わりに近づいてきたので、現認者が道工具や奥にあった残材を天井クレーンで片付けようとした。天井クレーンの電源をリモコンで入れ、クッションストッパーがまだ吊っていたことに気づかず、巻き上げたところ、ワイヤーが破断して、被災者の背中に倒れた。	39	1～ 9
6	15～ 16	第5工場建屋内東側にある素材置き場にて、D22用スタンションに仮置きしてあった材料を取り出すため、玉掛け作業で地切した際に、隣のスタンションD19の材料が被災者側へ荷崩れし、そのあおりを受け、仮置きしてあった素材用のスタンションと荷崩れしてきた素材に右足を挟まれた。	37	100 ～ 299
6	9～ 10	工場内にて、レーザー加工機でステンレスの板（1m×2m、重さ16kg）を加工するため、機械に板を載せる作業をしていた際、汗をかいた手で持ち上げたため、板が滑り落ちそうになり、手で支えようとした時に、板の端が右腕に当たり負傷した。	47	1～ 9
6	11～ 12	事業所内作業中に、金属コイルを移動させていたところバランスを崩し、コイルが倒れ、その際に左下腿部を擦り、負傷したものである。	34	1～ 9
6	10～ 11	当事業場製品置き場において、フォークリフトを使用してH形鋼を台座に移動する作業中、切り欠きのあるH形鋼を誤って切り欠き部分を下にして置いたため、隣に置いてあったH形鋼に倒れ掛かってしまったので、フォークリフトから降りて手で動かそうとしたところ、倒れ掛かっていたH形鋼が台座の上で倒れ、そのH形鋼と台座の間に右示指が挟まり負傷した。	58	10 ～ 29
6	13～ 14	当社工場内において、H鋼のショットブラストへの送り作業中、積んであったH鋼（40×20×200cm）がバランスを崩して倒れてきたため、左足膝下に当たり負傷した。	66	10 ～ 29
6	13～ 14	当社土場（資材置場）において、資材道具などの片付作業中（雨天で現場が中止のため、土場での片付作業中）、土場に敷いてある敷鉄板（鉄製1500×5000）上を歩いていた時、雨が降り鉄板が濡れていたため、足が滑って鉄板上で転倒し、その時に右手小指を骨折した。	70	30 ～ 49

6	11～ 12	作業台にて、クレーンで金型を降ろそうとした時、金型を吊っていた金具が外れて指を挟んだ。	37	1～ 9
6	16～ 17	工場内において、倒れ止め補強支柱の溶接が小さすぎて溶接が外れ、品物が転倒し、右足大腿部の上に倒れて切れてしまった。	51	1～ 9
6	17～ 18	工場内の清掃中に、長さ1m程のパイプが置いてあるラック下の隙間40cmの所をホウキで掃いていた時に、右手甲をパイプ先端部分に強打した。加工前のギザギサとしたパイプ先端だったため、手の甲の伸筋腱に強い圧力がかかり、中指の腱が切れた。	26	10 ～ 29
6	9～ 10	塗装ブース内の清掃中、壁板（鉄製）を外して移動中、壁板にはグリスが付着しており、更に地面にはペンキ（塗料カス）があり足場が悪かった。被災者は、足場が悪いため長靴を着用していた。（プロテクトなし）壁板の両端を持っていたが持ち方が悪く、グリス付着の壁板を移動する時、両端を持っていたために手が滑り、左足3指に壁板が落下した。	45	30 ～ 49
6	8～9	鉄筋配筋工事中に、本人が座り込もうとした時に、下に置いてあった鉄筋を踏みつけてしまい、上に向いた鉄筋が、陰囊部に刺さった事故である。	43	10 ～ 29
6	8～9	鉄筋配筋工事中に、本人が座り込もうとした時に、下に置いてあった鉄筋を踏みつけてしまい、上に向いた鉄筋が、陰囊部に刺さった事故である。	43	10 ～ 29
6	10～ 11	本社鋳造工場で鋳造作業中に、金型と製品が引っ付いた為、バールを棚から取ろうとした時、台の上に置いてある鉄板に当たってしまい、台から鉄板が落ち、右足の小指に当たり骨折した。	30	50 ～ 99
6	14～ 15	工場内にて鉄骨階段の溶接作業中、架台に載せてあった階段に足を引っ掛けたことによって階段が倒れて、架台と階段に挟まれ、左足の甲の部分を切り、9針縫った。	46	1～ 9
6	15～ 16	セットボルトをゆるめたのを忘れて作業をした為、品物が倒れた。足を挟んで倒れた為、腰を強打し、圧迫骨折をした。足を挟んだ時に溶接中だった為、火傷も	63	50 ～

		負った。		99
6	14～15	回転台を使用してブーム材本体に裏当て材を溶接する作業をしていた。溶接後の仕上げをしている際にブーム材が滑って落下し、左足を直撃し、左足甲を骨折した。ブーム材自体も小さく、リン木を挟んで固定していたが、作業性を考えてブーム材を手前側に寄せ過ぎていたために落下してしまった。	48	50～99
6	15～16	工場敷地にて4tトラックに鋼材を積み込み作業中、積み込んだ鋼材を荷締め機で固定しようとしていた時、鋼材の上に乗って作業をしていて滑り、鋼材とトラックのタラップの間に右足が挟まり、右足で体を支えようとして右足が曲がり、右膝を骨折した。	58	1～9
6	10～11	事業所敷地内において、鋼管を地表より40cm位の高さまで持ち上げた際、腰に激痛を覚えたものである。	52	30～49
7	18～19	冷蔵庫内ゴミ置場手前で、ダストカートに入っていたゴミを一旦カートから足元付近に取り出した。最後のゴミをカートから取り出し、ゴミ置場まで運ぶ際に足元にあったゴミに足をとられ転倒し、右膝を床に強打した。	56	10～29
7	11～12	工場内にて、鉄筋の切断作業に従事していたところ、鉄筋を移動させる際に、鉄筋の間に右手の中指及び親指を挟んでしまい、右手中指を骨折した。	43	10～29
7	14～15	当社工場内で、チャンネル鋼（約40kg）の溶接作業中に、チャンネル鋼の向きを変えるために持ち上げたところ手が滑ってチャンネル鋼を右足の安全靴のカバーがない部分にチャンネル鋼を落としてしまい、右足1、2、3、4、5基節骨を骨折する。	28	10～29
7	14～15	工場内塗装工程にて620mm×520mm厚み3mm重量3kgほどの製品をパレットから塗装するため治具に引っ掛ける際、作業自体に非定常作業はなかったが、製品の大小があり疲労が蓄積され、筋を痛めた。	48	50～99
		当社工場1階製缶工場において定盤（1,000mm×2,000mm高さ565mm）の上に角パイプ材（鉄製厚さ9mm、250mm×250mm×330mm約10kg）を2個積んで置		10

7	8~9	き、上の角パイプ材の上面を工場で研削作業中、上の角パイプ材の位置をわずかに前方へずらそうとしたところ、下の角パイプ材も一緒に動き、上下の角パイプ材がバランスを崩して下の角パイプ材が落下し、右足に当たり右第1趾を骨折負傷する。	66	~ 29
7	16~17	納品先の工場での事故。通常、鋼材を手降ろしするため、5' × 10' の上に4' × 8' を重ねて積んで納品先へ向かったところ、急遽、先方がクレーンを使用して降ろすことになり、先方がハッカーを使用して少し吊り上げ被災者がその隙間に板木を入れた時、ハッカーが外れ、板木と鉄板の間に左手の人差し指を挟まれた。	50	~ 49
7	17~18	工場内に於いて梁製品作業中誤ってスプライスプレートを落下させ、左足に当たり左足の薬指が負傷。	23	30 ~ 49
7	16~17	H鋼の上に置いていた製品の仕上げをするために登ろうとした。H鋼に手を掛けた時にH鋼のバン木が不安定だったためH鋼が、たおれ、両足を挟み骨折した。	18	1~ 9
7	15~16	鉄筋加工中に、材料ふりまわしている際頭部にあたって切った。	48	1~ 9
7	11~12	弊社工場内において、H鋼（高さ300mm×幅150mm）を切断する作業中、寸法を測ろうとH鋼の上に上がり移動中、誤って、右足を踏みはずし、右膝に全体重がかかったのが負傷の原因である。（当日は様子を見て、終業時刻まで仕事をしたが、痛みが続いた。）	40	1~ 9
7	14~15	工場で、作業を終え、移動しようとした。移動するために、右足を架台に乗せ、乗り越えようとした時、足がふらつきバランスを崩し、右側の側面にある鉄に手をついて鉄が倒れた。その際右足首部位が接触して被災した。	29	100 ~ 299
7	9~10	当社工場内で搬入されたH型鋼（125cm×125cm×6.5cm長さ11m×5本を番線でくくったもの）を、クレーンのクランプを付けて鋼材を起こす時、クランプのボルトに引っかかって傾き、自分の後ろにあった他の鋼材の間に両足を挟まれ、左足すねとふくらはぎを負傷した。右足は軽症だった。	46	1~ 9

7	10～ 11	工場で吊り物をしている時に横にあったH鋼に引っ掛かり、その物がたおれて足首にあたりけがをした。	59	1～ 9
7	9～ 10	会社工場内の塗装小屋において室内クレーンを使い製品の整理の作業をしていたところ、吊り具を製品に引っかけてしまい、そのはずみで製品である鋼材（1.5t）が倒れ、本人の両足大腿部を直撃したものである。	26	10～ 29
7	11～ 12	当社加工場内に於いて、鉄筋鋼材の加工作業に従事中、鉄筋（長さ3.5m）を8本加工機械の台上に平らに並べて鉄筋の曲げ加工をしていたところが、その中の一本の鉄筋がやや傾斜していた為に突如加工台（高さ80cm）から落下して作業中の当人の左足に当たり、鉄筋の切先で小指を切傷し、小指の骨を折る負傷を負ったものである。	64	10～ 29
7	10～ 11	工場内で長さ1400mmのH鋼6本をクレーンにて移動させている時にH鋼を支えていた左手をH鋼に挟んでしまい薬指を骨折したものである。	31	1～ 9
7	15～ 16	当社工場内において、製品の建築用ベース金物（150角型鋼：高さ300mm・厚12mm、ベースプレート：300×300・厚16mm・約25kg）のロボット溶接後の点検をするため、作業台の上に製品を並べていた。作業台の上に製品を2段重ねで並べていた際、上段に重ねようとした製品が上手く載らずに、作業台の上に倒れ落ちてきてしまい、軍手をしていた右手の甲に製品がぶつかり、負傷した。	62	50～ 99
7	14～ 15	当社資材置き場において、トレーラ車に鉄骨を積み込む作業をしていた際、速足にて場所を移動中、近くに置いてあったH鋼側面から突出しているプレート部分の角に左足の脛部を強打し、転倒した際に怪我をした。	41	1～ 9
7	13～ 14	弊社工場に仮組してあるオープンシールド機に、排水ゲート（重量約245kgのプレート構成の製品）を、高さ2m50cmから門型クレーンで吊具（縦吊りクランプ）を使用して入れ込む作業の際、製品が斜めになり入り込まなかった。作業員は脚立に乗りクレーンフックを下降させ、吊具の縦吊りクランプが弛んだ状態で手で揺さぶったところ、製品が吊具から外れ落下した。その際、落下した製品が作業員の右手等に接触したあと脚立にも接触し、その反動で作業員は脚立から転落し負傷した。	32	1～ 9
		倉庫にて、製品（厚さ200mm、幅405mm、長さ約9000mm、1ロット）をクレーンを		

7	16～ 17	使って移動していた。揃え重ねて置くため横にある製品の上にあがり、中央部分に近づこうと歩いていた。その際、右足が滑り右膝から製品の上に転び、右膝脛部分をつきながら滑り、製品の角部分で右膝脛部分を切り、負傷した。	20	10 ～ 29
7	17～ 18	工場内で、厚さ1cm・直径1.5mサイズのステンレス製の板をステンレス加工機まで運ぶため、別の工場作業員と2名で持上げたとき、右手を滑らせてしまい、右手の親指の付け根に直撃し、損傷した。	41	50 ～ 99
7	8～9	工場内で機械くずの解体作業中に、落下防止（可動防止）を実施せずに、テンションをかけていたモーターのボルトを緩めてしまい、ボルトが外れ、それが原因で可動部が動いてしまい、身体を挟んでしまい、腰部を骨折した。	37	30 ～ 49
7	13～ 14	当社工場内で、製品のダクト（直径510mm×長さ2500mm、重さ40kg）を2人で運んでいるとき、それを下に降ろすときに手が滑り、不安定になったのでそれを止めようと、咄嗟にダクトの中に右膝を入れて負傷した。	55	10 ～ 29
7	11～ 12	棚板塗装作業中、金属製の棚板が掛っている塗装ラインから棚板を取り外して降ろすとき、左手首を捻った。	47	10 ～ 29
7	10～ 11	プレス用コイル材の搬入準備のため、立て掛けてあったコイル材（重量250kg）にワイヤーを掛けるため、少し傾けたとき、コイル材が倒れ、足が挟まれ負傷した。	55	10 ～ 29
7	14～ 15	工場にて不要な鉄板を片付け中、鉄板に親指が当たり負傷した。	46	1～ 9
7	9～ 10	材料置場で材料を支えていた際、材料が倒れて来て、右足が挟まれた。	36	10 ～ 29
7	16～ 17	組立作業中、部品を持ち上げる時に足元からふらつき、安全靴を履いていたにもかかわらず、左足甲に部品が落ち、骨折した。	41	10 ～ 29
				10

7	14～ 15	クレーンで鉄板を持ち上げた際、出来た品物も一緒にハッカーに引っ掛かり、品物が落ちたときに右手の指に当たり、人差し指を骨折した。	61	～ 29
7	16～ 17	材料（ブリキ板）の梱包を解くため、巻いていた帯鉄を切断する際に、弾けた帯鉄で誤って右手親指を負傷した。	25	30 ～ 49
7	14～ 15	工場内の材料ストックヤードにて、材料の仕分け作業中に鉄筋資材の上（高さ1.7m）を移動していた。移動中にバランスを崩して転落し、コンクリート床に身体の右側から落ちて被災した。	64	30 ～ 49
7	11～ 12	工場内において、作業台の上に重ねて置いてあった製品（ボックス文字）を同僚と持ち、塗装前の吊り掛け作業を行っていたとき、重ねてあった製品の一番下が鋭利な品物であったため、その先が右脚太もも横の部分に刺さり負傷した。	33	30 ～ 49
7	14～ 15	材料倉庫で鋼材を取り出す作業中、広く作業スペースを確保出来なかったため、滑り落ちて来た材料に足を挟まれた。	41	10 ～ 29
7	8～9	工場でアングルを移動して、置こうとした際に手が滑り、薬指を挟んだ。	31	1～ 9
7	16～ 17	弊社出張所車庫内にて、作業準備のため資材整理を行っていたとき、H鋼ピース（H400、L0.1m、65kg）を抱えて運搬中に、持ち替えようとしたところ保持しきれず、腰高（約0.7m）から右足背部に落下させて受傷した。	49	10 ～ 29
7	17～ 18	負傷者（派遣社員）は、製品置場横作業場で、切断後の製品（50×250×190）をグラインダー処理するため、手で製品を持ち動かそうとしたとき、製品と製品の間で右手中指を挟み切創した。	26	10 ～ 29
9	16～ 17	鋼材ヤードにて、角パイプ（厚さ32mm×巾75mm×長さ7m重さ49.07kg）を1本出荷の為、角パイプの端で手を寄せていたところ、隣に積んでいた同角パイプの1本が崩れ落ちて右手薬指に当たって負傷したものである。	69	10 ～ 29
9	11～	金属材料を積み上げている台から、材料の一つを取り出そうとしたところ、積み上げている下の部分の材料を取ってしまったため、上部の材料がくずれてきて負傷し	26	10 ～

	12	たものである。		29
9	15～ 16	当社、作業場にて鋼材の切断作業を行うために作業台（高さ1mぐらい）の上に鋼材を置きマーキング作業を行っていたところ作業台上の鋼材に気を取られていて、足元に落ちていた鋼材の端に気づかず、誤って踏んでしまい左足を負傷したものである。	72	10 ～ 29
9	16～ 17	工場内にて、19本のパイプ（直径約10cm、長さ約3m）を束ねているバンドを切った時に、パイプが左足の甲に落下した。	37	1～ 9
9	11～ 12	事業所工場内のプラズマ切断機の作業場所に於いて、切断後の鋼板スクラップ（t=28mm）を、所定置き場へクレーンで移動する際、スクラップ置き場の柱に鋼板スクラップが衝突した為、鋼板スクラップが傾き、当人の右足へ落下し負傷したものである。	34	30 ～ 49
9	11～ 12	工場の外のウマの上で、厚さ6mm長さ6m重さ100kgの鉄骨加工中、1人で回転させた為、片方が転がり反動で人がいる方にも転がり、足に落ちた。	47	1～ 9
9	14～ 15	工場1階、転造機で転造作業中にM16×長さ4000mmの丸棒を自動機で転造作業中に、丸棒が上下左右にぶれながら回転したので、軍手をはめた手で押さえたところ巻き込まれてしまった。転造作業を行う場合、必ずゴム手袋に油を塗布して材料に触れる手順になっているが、巻き込まれやすい軍手の状態で材料を押さえてしまったため、右手前腕を骨折し、皮膚を裂傷した。	24	10 ～ 29
9	8～9	社内現場にて、曲がっている品物をひろげる為にハンマーでたたいていたら品物が指に飛んできて当たって折れた、固定できなかったなので、その場で置いて仕事をした。	28	1～ 9
9	15～ 16	工場内で作業中、立ててある平板の奥の板を取ろうとした時に、重みで指がはさまり、はさまった指の上に持ち上げた鉄板が落ちてきて、左手甲を切った。	36	1～ 9
9	14～ 15	会社工場内で次の作業にうつる為、片付け作業中に誤って左手が山形鋼（3m～3.5mくらい）の先端に強くあたり負傷する、小指と薬指の間が切れて裂傷した。	27	1～ 9
9	8～9	工場で材料（鉄板）が手に当たり左手甲が傷ついた、その後、材料を持った時にパンと音がして痛くなった。	32	—

9	11～ 12	工場内で、鋼板の切断加工中にクレーンを使って鋼板（厚さ6mm×1524mm×3048mm）をプラズマ切断機に乗せる際、下敷きになっていたリン木を外そうとしたときに、鋼板が約50cmの高さから落ち、左手人差し指を負傷した。	38	10 ～ 29
9	14～ 15	新しいヤード内で倉庫の建方作業をしていた、ヤード内には5人作業員がいましたが、事故のおきた建方作業は2人で行っていた。両サイドに縦にたっているH鋼の地上から3M前後の所に補強のため横向きにH鋼をアングルの上に仮置きして、その下で両サイドのH鋼の歪みを確認していたら仮置きしたH鋼が落下し、まずかぶっていたヘルメットにあたり、そのまま鎖骨部分におち腕になだれ落ちた。	29	1～ 9
9	11～ 12	工場内にて寸法確認作業をしていた時、製品1（高さ3M巾3M程度の箱型）に万力で上下2ヶ所固定していた鋼材（H鋼100×100×6×8/2M程度）が、固定がはずれ倒れかかってきた、避けようとしたが、背後にあった製品2（高さ1M巾2M程度）との間に右足をはさまれた。	34	10 ～ 29
10	11～ 12	当社事務所の鋼材ヤードにおいて、入庫した平鋼にサビ防止のためのシートをかける作業を行っていた。作業中にシートの下にある平鋼に足を引っかけてしまい、転倒して負傷した。	68	10 ～ 29
10	11～ 12	工場内で材料（12cm角パイプ、長さ63cm）を切断する準備中、切断用の台に乗せる際、適正な位置に乗せていなかったことにより落下し、左足の上に落ちて骨折した。（安全靴は履いていたが、鉄板の入っていない部分に落ちた）	37	10 ～ 29
10	11～ 12	パネル工程の切断機で、パネル切断が終わった物を両手で持ち上げ、ラックに載せようとした。近くに別物件で切断したパネルが寝かせて置いてあり、左手中指付近が接触し切傷した。	59	30 ～ 49
10	9～ 10	工場内で横になっている材料（H型鋼H400×200サイズサイズ長さ約3m）を起こす作業中に、天井クレーンの位置を確認せずクレーン操作し、上げてしまい吊り上げた時に、本人腹部に材料が当たってしまった。	22	1～ 9
10	13～ 14	長材製品を切断後、スクラップ部分（1,040mm、重量約40kg）を手に持ち、スクラップ箱に捨てる壁、スクラップ箱の縁とスクラップに挟まれて左手小指第一関節	56	1～ 9

		および腱を切断。		
10	11～ 12	工場内で鋼材の運搬のためクレーンで吊り下げた鋼材が倒れ、足に乗ったため左足のすねを骨折した。	67	1～ 9
10	8～9	クレーン作業において、製品出荷準備中、製品上にクレーンのハッカーを移動する際にクレーン及びハッカーを見ながら身体を移動し、前向きに走行中、足元を見ていなかった為に、作業通路の鉄板敷板の段差（5～10ミリ）に足が躓き、身体が前のめりになり、準備製品に手を出す形となり、左手を梱包品に出す際、手の平側ではなく甲側でついてしまった為、手首部分を骨折及び脱臼した。	51	1～ 9
10	14～ 15	大型フライスの鋼材加工場内にて鋼材加工物（110×270×375、89kg）をフライス加工中、品物をシブクレーンで吊り、マグネットチャック所定位置へセットしようとした。この時、品物にがたつきが生じた為、品物をマグネットチャック上で反転させようと、左手で立て、右手で支えながら加工面を反転させようと動かしたが、品物の重さに耐えきれず落下させ、落とした品物とマグネットチャックの間に右手人差し指を挟み負傷した。	44	30 ～ 49
10	15～ 16	当社工場内でH鋼（重さ30kg200×100幅3000mm長さ4800mm）フレーム加工中、H鋼の枠を入れこむため、鉄製の大ハンマー（重さ5kg）を右手で持ち、左手で製品をおさえながらハンマーでたたいていた。その衝撃で右手に痛みが生じて被災した。	62	1～ 9
10	9～ 10	台に置かれていた重さ約100kgのL字鋼の束から順次L字鋼を作業台へ持ち運ぶ作業をしていた。L字鋼を運ぼうとした際、誤って台に体を接触したため、束が崩れ、崩れたL字鋼で左手を挟み、左手小指、左手首を負傷した。	50	50 ～ 99
10	10～ 11	塗装するために鉄骨（L字型、約3m、約20kg）を縦に並べて吊る作業をしていた。一番下の鉄骨をしゃがんで吊ろうとしていたところ、バランスを崩して尻餅をつき、鉄骨が足くるぶしの上に落ちてきて負傷したもの。	22	10 ～ 29
10	7～8	工場内で加工終了後、車に積み込む中、手を滑らして鉄板で右手首と筋を切る。	56	1～ 9
	9～	本社鋳造工場でハンマー作業中金型にセットする素材の位置が悪かったのに気付か		50

10	10	なかったため、バリ（余内）が多くなり、バリの一部が切れて右股関節に当たり負傷した。	29	～ 99
10	16～ 17	工場内で、定盤の上でステンレスパイプとフランジを溶接にて取り付け作業中に発生した。両手でパイプとフランジを合わせているとき、手からフランジが滑り落ち、左足甲に当たり負傷した。（安全靴は着用していた。）	31	1～ 9
10	14～ 15	自社工場内において治具にセットする作業中、鋼材（約100kgの半加工品）を厘木の上で広げる作業中に鋼材の下に手を入れてしまい、右手小指を裂傷した。	33	1～ 9
10	16～ 17	倉庫内にてステンレス銅版厚さ2ミリ広さ1m×2m-1板を吊りハッカーで吊るために銅版の下にりん木を差し込み手を抜く時に銅版エッジ部の返りが出ている部分に手が触れ左手人差し指を手袋ごと切創した。	27	50 ～ 99
11	13～ 14	工場内組立定盤上で、旋回Rブラケット（幅300mm×長さ575×高さ210・重70kg）2個をクレーンで運び終えたところ品物が重なっていた為、自力でずらそうとし左手をブラケットの下にあてがったところ品物が一瞬ずれた拍子に左手中指、薬指を挟んでしまった。	59	100 ～ 299
11	9～ 10	当社工場内において加工した鋼材の場内移動中、被災者の手前側、そしてその奥と2本並んでいた大梁材のうち、奥の大梁材を玉掛け・吊り上げた際、手前側に置いてある大梁材（H-600×200）に引っ掛かり、それが被災者側に傾斜し、とっさに受け止めようとしたが、重量物のため受け止めきれず、正座した体勢になり両腿に倒れ込み、負傷してしまう。	23	10 ～ 29
11	13～ 14	工場B棟（ショット機と開先機の間）でショット作業を始めたが、先に別サイズの製品を仕上げるためH248×124?4800×20本を動かそうとワイヤーを通したところ、片方のフランジ部が台木ギリギリの所に置いてあり、片手を上部に手を掛け、もう片手でワイヤーを取る際、荷崩れがおき両足にH形鋼6本が落ち下にあったH鋼に挟まれ右足を骨折した。	23	—
11	15～ 16	弊社派遣先である電縫鋼管製造ラインにおいて、内径ビードを機械で切断しやすくするため火ばさみで挟み補助する作業中、ビードが折れ曲がった状態で手前に振れ火ばさみを持っていた右手に当たり負傷してしまった。	27	100 ～ 299

11	13～ 14	工場作業時に、鋼材（H鋼72kg）を、二人で移動させようとした際に、一人が手を滑らせ、鋼材を離れた時にバランスを崩し、本人が鋼材と定盤の間に手を挟まれ受傷した。	61	1～ 9
11	10～ 11	工場内にて、いつも通りの作業中、U字型のパイプ（15kg位）が2本重ねて立て掛けてあり、その内の1本を取り、持って行こうとした時、もう1本に躓き転倒した。その足の上に製品（もう1本のパイプ）が倒れてきて、右足の脛に当たり、負傷した。	44	10 ～ 29
11	14～ 15	钣金工場内において、鉄商品を溶接機で溶接後、自分の背中側の台に置き、次の商品を溶接していたところ、置いていた商品の熱により、近くにあった座布団が発火し、衣服に引火した。気付くのが遅れたため衣服を脱ぐのに手間取り、火傷を負った。	71	10 ～ 29
11	9～ 10	工場内にて作業中に、足元に鉄板を並べて置いて動かそうとした時、鉄板が崩れてきて左足指の上に落ちてきた。	69	1～ 9
11	9～ 10	塗装ヤードで、クレーン作業中、鋼材（溝形鋼）を移動する際、マグネットの磁力が不十分な状態で鋼材が2本持ち上がってしまい、1m程の高さから1本が落下した。その反動で、鋼材が大きく動き、左手中指の先が切断された。	26	10 ～ 29
11	15～ 16	工場内で、エッチング工程において生産時の連結テープを剥がす際に、親指と人差し指でテープを保持しながらスライドさせた時にテープが切れ、そのはずみでワーク（ステンレス材400mm×500mm×0.3mm）が浮き端面に中指が接触し裂傷してしまった。	39	100 ～ 299
11	17～ 18	両手で鋼材（9mm×150mm×300mm）5枚を運んでいた時、ずれて左足甲に落ち、負傷した。〔対策〕複数枚運ぶ場合は、結束して運ぶこととする。	67	10 ～ 29
11	8～9	工場内を作業場に移動中、アングル（1,770×1,214の額縁）が倒れ掛かって来て、左足の上に倒れ負傷した。クレーン等で移動させていたものではなく、立てていたアングルが何らかの拍子に倒れて来て、左足が挟まったとのことである。	33	30 ～ 49
	15～	工場にて、アルミ板を移動する際に誤ってアルミ板を落としてしまい、アルミ板の		10

11	16	角が左足小指に当たり負傷した。	34	～ 29
12	10~11	工場内の作業台で、金属製品を溶接作業中、製品を手前に回転させて移動する際、手がすべり、作業台から製品が落下し、避けようとしたが、左かかとにぶつかり負傷した。（製品は50cm四方で30kg程）	42	1～ 9
12	15~16	溶接作業をしていた所、作業から廃材のガス溶断を行った際に、よじれた廃材（36mm×150mm×120,000mm）がよじれた反動で跳ね上がり右足に接触し、骨折した。	47	10 ～ 29
12	10~11	工場内に鉄製丸パイプを搬入する為、ラックに載せ、それをキャスター付台車に載せて手押しにて移動させていた。その台車の向きを変えるために台車を押した際に丸パイプがラック内で転がり、ラックの片側に寄ってしまったことでバランスが崩れ、ラックと丸パイプが台車より落下した。その際に右足がラックとパイプの下敷きとなり、右足腓骨・内果を打撲骨折したものである。	23	30 ～ 49
12	15~16	工場内でH鋼製品（H200×100、1m）を作業台上で治具を用いて反転作業中、通常は自分側から奥側に3回で反転させるところ、手前に1回で反転させようとした。製品が作業台から落下し、右足人差し指に接触し負傷した。	24	10 ～ 29
12	8~9	被災者は普段、NCを使って鉄板を切断する作業に従事している。被災時には鉄板の片づけを行っており、鉄板を運搬中に何かに当たってしまい、立て掛けていた鉄板が崩れて下敷きになった。	29	10 ～ 29
12	14~15	当社工場内で、鉄骨の仕口を組み立てる作業中に、ホイスで仕口を吊り上げ、反転させて下ろしたとき、仕口が左右対称でなかったため、バランスが崩れて自分の方へ倒れてきた。その際に避けきれず、左足の脛脛に当たり、負傷してしまった。	62	10 ～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html